

福井県 地球温暖化防止効果に効果の高い取組

「総合的病害虫・雑草管理（IPM）と組み合わせた畦畔除草および秋耕の実施」

水稻の作付が終わった後、秋起こしをすることで地球温暖化防止に効果が高い取組

- ・実施面積：110ha
- ・実施件数：2件
- ・実施地域：美浜町、鯖江市など
- ・開始年度：平成28年度

実施状況



秋耕を行っている写真

本県では「ふくい農業基本計画」を平成26年に策定し、その中で「秋の田起こし運動」により1等米比率を高めることを目標に掲げている。

IPM+秋耕は28年度から地域特認取組として開始され、昨年度55haであった取組面積は、29年度はさらに増加し130haとなった。

また、当該取組を実施している主な地域は、美浜町、鯖江市である。

調査結果

| 単位面積当たり 温室効果ガス削減量 (t-CO ₂ /年/ha) | 実施面積 (ha) | 温室効果ガス削減量 (t-CO ₂ /年) |
|---|--------------|-------------------------------------|
| 5.49 | 110 | 604 |

単位あたりの温室効果ガス削減量は5.49 (t-CO₂/年/ha)、総合的な削減量は604 (t-CO₂/年)であった。

要因分析

地球温暖化防止効果については、IPM+秋耕で温室効果ガス削減量が最も大きい結果となった。

単位あたり削減量でも最も大きな数字となったことに加え、実施面積がカバークロープや堆肥の施用の取組よりも大きいことが影響している。

今後の方向性等

【今後の方向性】
(より効果を高めるために目指していく方向性)

効果の総量を高めるため、引き続き秋の田起こし運動を推進し、当該取組の面積増加を目指していく。

【その他】(当該取組で特筆すべき事項)

- ・土壌浸食防止効果
草刈り除草管理により、雑草の根により畦畔の崩壊防止が図れる。
- ・病虫害発生抑制効果
草刈りにより、イネ科雑草等の開花が抑えられ、斑点米の原因となるカメムシ類等の水田への飛来・侵入を抑える効果があるとともに、ほ場内の通気性が高まり、湿度が下がることで、いもち病、紋枯病等の抑制効果がある。
秋耕により、稲株で越冬するニカメイチュウやヒメトビウンカ、ツマグロヨコバイの越冬密度を下げる効果がある。

福井県 生物多様性保全に効果の高い取組

「総合的病害虫・雑草管理（IPM）と組み合わせた魚毒性の低い除草剤 1 回施用+畦畔機械除草 3 回以上」

本田の除草剤の使用を、魚毒性の低いもの 1 回と制限することで、生物多様性保全に効果の高い取組

- ・実施面積：219ha
- ・実施件数：6件
- ・実施地域：池田町、若狭町など
- ・開始年度：平成24年度

実施状況



畦畔機械除草を行っている写真

IPM+魚毒低は、24年度から本県の地域特認取組として開始された。取組面積の推移は開始年度からほぼ横ばいである。

当該取組を実施している主な地域は、池田町、若狭町である。特に池田町は積極的にIPM+魚毒低を実施しており、29年度では本県における取組面積の約8割を占めている。

調査結果

| | スコア | 評価 |
|-----|-----|----|
| 実施区 | 5 | A |
| 対照区 | 1 | C |

・調査の結果、スコアは実施区が5、対照区が1、評価は実施区がA、対照区がCとなった。

要因分析

生物多様性保全効果については、有機農業、中干延期、IPM+魚毒低の取組で調査を実施した。

中干延期とIPM+魚毒低のスコアは、実施区では同じであったが、対照区ではIPM+魚毒低よりも中干延期の方が高く、両取組を比較するとIPM+魚毒低の方が効果が高い結果となった。

今後の方向性等

【今後の方向性】
（より効果を高めるために目指していく方向性）

取組による効果の総量をさらに高めるため、IPMと畦畔機械除草を一層推進し面積を拡大を目指していく。

【その他】（当該取組で特筆すべき事項）

- ・土壌浸食防止効果
草刈り除草管理により、雑草の根により畦畔の崩壊防止が図れる。
- ・病害虫発生抑制効果
草刈りにより、イネ科雑草等の開花が抑えられ、斑点米の原因となるカメムシ類等の水田への飛来・侵入を抑える効果があるとともに、ほ場内の通気性が高まり、湿度が下がることで、いもち病、紋枯病等の抑制効果がある。